

拠点校の事業実施報告書

拠点校名：天草市立栖本小学校

1 本校における取組の具体的な内容

① 教員の指導力向上のための取組

○ 研修の充実

年間の研修計画を当初から見越し、理論研修、研究授業、講師招聘など、指導力向上のための研修を充実させた。また、学級担任1人で行う活動の工夫について研修を深めた。

② 指導方法の工夫改善

○ interestingな教材の開発と年間指導計画作成

・実態に合わせた教材開発と英語ノートに沿った活動案集を作成した。

○ 子どもが夢中になって取り組む楽しい授業づくり

・学級担任をT1として取り組む「楽しい授業」をめざし、学習過程を4つに分け、「ウォーミングアップ」「アクティビティⅠ」「アクティビティⅡ」「フィニッシュ」のパターン化を図り、1単位時間の流れを明確にした。

・ゲームの特性を生かした体験活動の精選や必然性のある場面設定の工夫を行った。

○ 教員の役割

・授業研究を通して、担任(進行役)とALTの役割を確実に明確なものにした。

③ 児童の興味・関心等学習状況の変容の把握

○ 調査統計部により、年2回の調査を行った。

④ ALTや地域人材等の効果的な活用

○ ALTや地域人材等とHRTの役割の明確化を図り、下表のような特性を生かし、役割分担することにより効果的な活用を行った。

HRT (学級担任)	ALT (社会人講師を含む)
○ 英語活動の計画・立案	○ 英語活動づくりの補助
○ 教材づくり	○ HRTとの教材づくり、準備
○ 英語活動の意欲付け、雰囲気づくり	○ 英語活動での発音練習あいさつ、歌の指導
○ ゲームの説明	○ ナチュラル・イングリッシュ
○ 子どもへの支援(励まし、称賛)	○ 子どもへの称賛
○ ALTへの積極的な働き方の促進	○ 学習意欲向上のための言葉かけ
○ 基本的な学習態度の支援	○ 基本表現を質問する子どもへの対応
○ グループ作り等の指示	○ 外国の雰囲気づくり、外国文化の紹介
○ 英語活動のHRTによる評価、子ども評価	○ 英語活動のALTによる評価、子どもの評価

○ ALT等との「15分間打ち合わせ」の工夫

昨年度、研究を始める前に教師を対象としたアンケートから困り感として、「打ち合わせの時間がない」ことがあげられ、時間の確保等について工夫した。

打ち合わせの流れをおおむね決めておき、15分程度でできるようにした。また、授業の後は、5分程度で反省をして、お互いの感想等を述べ、次の授業への改善点を確認するようにした。

⑤ その他(中学校との連携、ICTの効果的な活用等)

○ 小中連携体制づくりについては、中学校へのな円滑な接続という点で、小中連携事業での授業参観を行い、英語活動の研究会に参加してもらった。

○ ICTの研修を行った。

○ その他として、児童が主体的にかかわることができるよう、委員会活動において担当教師の支援により、英語の歌の選曲を行ったり、振り付けを考え、全校で活動したりした。

2 本校における取組の成果と課題

① interestingな教材の開発と年間指導計画作成

- ・教材開発や楽しい授業づくりを工夫し、実践を積み重ねることで、子どもの活動意欲が増した。授業が終わってからも「もう終わり？もっとしたい。」と言いながらアクティビティを続ける姿が見られた。
- ・活動案と年間計画を作成し、見通しが持てた。今後さらに深化・発展させる必要がある。

②子どもが夢中になって取り組む楽しい授業づくり

- ・子どもの取り組みの姿が他にも好影響を与えた。
- ・子どもたちは遊びを通していかに多くのことを学ぶのかを、改めて認識することができた。
- ・学習過程のパターン化で、授業がしやすくなった。
- ・子どもが夢中になって取り組むためには、聞く、話すの特性をとらえた活動（ゲーム等体験）構成と、場の設定に必然性が必要であることがわかり、主活動の内容構成と場の工夫を図ることができた。
- ・活動を盛り込みすぎると、子どもも授業者も活動意欲が低下してしまう点に配慮が必要である。

③多様な人材活用と活用の方法

- ・児童はかかわりの楽しさを実感し、多くの人とかかわりは自信につながった。
- ・HRTとALTや地域人材との計画的な運用や特性を生かした効果的活用ができた。

④担任1人でもできるデジタル教材等の活用

- ・電子黒板の効果的な活用として、ALTの表現と表情を実際に例示することによって、繰り返しの使用や発話のスピード調整ができた。
- ・子どもの作品を即座に例示したり、それを使った発表等ができ、子どもの関心を高めた。
- ・電子黒板の操作については、研修として時間を十分確保することができず、操作についての臨機応変な対応が取りにくかった。

⑤英語活動から他教科等へ授業マネジメント力

- ・めざす授業像の実現に向け授業実践を積み重ねることで、子どもは大きく変わることを実感できた。また、英語活動だけでなく、他の教科等の授業改善・指導方法の工夫にも生かせることがわかった。

⑥その他

「コミュニケーションの素地作り」とは、子どもたちが、他者と手を取り合ってよりよい人間関係や学習を築くために大切な基盤作りと考える。児童は楽しい体験的な活動を通して体験的に理解し、楽しみながら多くのことが身に付いた。

また、教師も変わった。授業作りを積み重ねるうちに、教師には発想の転換が必要であることを痛感した。何度も繰り返し言わせる教え込みの授業から、遊びの中に活動を仕組み、学習形態等工夫を図り、何度も楽しみながら口にさせると、児童はいつの間にか教師が意図することを口にしている。言語の素地作りの基盤ができてくると、まさに児童は表現を簡単に使えるようになる。年度最終のアンケートではほとんどの児童が好きと答えている。

最後に、児童は、「外国に行ってみよう。」と外国の文化や言語への夢や関心が高まった。楽しい体験的な活動を多く取り入れ、多くの人とかかわらせることで、自分の個性を確立するとともに相手の個性を大切に思う心も高まった。英語活動を通して、他の教育活動や学校生活が楽しくなったとする児童が多くなり、自分のことや友達存在を大切に思う心や、外国の文化や歴史を大切に思う心など、これからの国際社会で生きるための国際感覚が身に付いてきたことは私たちの大きな喜びであり、研究の大きな成果だといえる。英語活動は、全人教育的な活動であることを感じた。

今後も児童が夢や希望を持って、他を受け入れ自分を持ったコミュニケーション能力の素地を養うために、以下の点に留意しながら研究を継続させていきたい。

- ・今年度作成した年間指導計画・活動案は、見直しと改善を図っていきたい。
- ・中学校では、本校英語活動がさらに中学校で深化するよう教育課程等を配慮し受け皿作りの準備を行っている。研修の共有など、今後も連携を深め、英語活動から英語教育へのスムーズな移行を図っていきたい。